

砂丘のふらここ展 2010 事業報告

実施主体名	「砂丘のふらここ展 2010」～第 22 回倉文協連合展～ 実行委員会																																																										
事業名	「砂丘のふらここ展 2010」～第 22 回倉文協連合展～																																																										
事業実施期間	平成 22 年 10 月 15 日（金）～ 平成 22 年 10 月 20 日（水）月曜休み																																																										
事業実施場所	倉吉博物館																																																										
事業概要	<p>書道・洋画・版画・写真・日本画・染織・デザインなど、地元で活動する文化芸術団体・個人により、幅広いジャンルにわたる芸術作品を一同に展示しました。</p> <p style="text-align: center;">～出品者名～</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">書道</td> <td style="width: 20%;">水谷鴨村 谷田昭翠</td> <td style="width: 20%;">大窪翠村 山際法仙</td> <td style="width: 20%;">加嶋翠蘭</td> <td style="width: 25%;">妻藤江葉</td> </tr> <tr> <td>版画</td> <td>石脇正江 近藤正徳 中原玉美 山本和男</td> <td>奥田幸衛 坂田秀樹 林小夜子</td> <td>小田加代子 菅原一代 毛利和子</td> <td>桑田幸人 計羽孝之 山崎勝美</td> </tr> <tr> <td>写真</td> <td>朝倉雅仁 清水節子 松田龍太郎 山根喬市</td> <td>池上憲文 津村睦男 森脇登美子 山本紀弘</td> <td>上田福美雄 西谷照子 山田敏和 山本浩一</td> <td>尾川伸弘 秦野のぼる 山田直人 山脇賢治</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>尾形友行</td> <td>川本東洋</td> <td>山根大和</td> <td></td> </tr> <tr> <td>洋画</td> <td>秋本直子 岡本優子 小谷順子 長谷川聖子 山崎美奈子</td> <td>市川圭子 門脇賢太郎 佐伯文子 林本豊 山根千賀子</td> <td>入江喜美子 兼田明子 長尾俊一 円 謙三 山本すみえ</td> <td>入江敏子 倉本美香 南場兄一 水本亜希 若槻 勉</td> </tr> <tr> <td>日本画</td> <td>中川端月 徳田三凌</td> <td>井谷蘭径 松本恵春</td> <td>井上畊岳 山根凌雪</td> <td>東原玲泉</td> </tr> <tr> <td>染織</td> <td>工房 GURUGURU</td> <td></td> <td>鷺見早余子</td> <td>吉田公之介</td> </tr> <tr> <td>招待作家</td> <td colspan="4">藤田春水（書道）</td> </tr> <tr> <td>県文連</td> <td>湯梨浜町文化団体協議会</td> <td></td> <td>（日本画） 石川綾香 岡本ゆう子</td> <td>井上ゆきみ 岸本律子</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">勝山文化協会（ちぎり絵）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>石川八千代 中川早智子 宮本享代</td> <td>酒井睦子 福本好子 三町陽子</td> <td>佐藤時江 松尾初江</td> <td>田村喜美子 松本和江</td> </tr> </table>				書道	水谷鴨村 谷田昭翠	大窪翠村 山際法仙	加嶋翠蘭	妻藤江葉	版画	石脇正江 近藤正徳 中原玉美 山本和男	奥田幸衛 坂田秀樹 林小夜子	小田加代子 菅原一代 毛利和子	桑田幸人 計羽孝之 山崎勝美	写真	朝倉雅仁 清水節子 松田龍太郎 山根喬市	池上憲文 津村睦男 森脇登美子 山本紀弘	上田福美雄 西谷照子 山田敏和 山本浩一	尾川伸弘 秦野のぼる 山田直人 山脇賢治	デザイン	尾形友行	川本東洋	山根大和		洋画	秋本直子 岡本優子 小谷順子 長谷川聖子 山崎美奈子	市川圭子 門脇賢太郎 佐伯文子 林本豊 山根千賀子	入江喜美子 兼田明子 長尾俊一 円 謙三 山本すみえ	入江敏子 倉本美香 南場兄一 水本亜希 若槻 勉	日本画	中川端月 徳田三凌	井谷蘭径 松本恵春	井上畊岳 山根凌雪	東原玲泉	染織	工房 GURUGURU		鷺見早余子	吉田公之介	招待作家	藤田春水（書道）				県文連	湯梨浜町文化団体協議会		（日本画） 石川綾香 岡本ゆう子	井上ゆきみ 岸本律子		勝山文化協会（ちぎり絵）					石川八千代 中川早智子 宮本享代	酒井睦子 福本好子 三町陽子	佐藤時江 松尾初江	田村喜美子 松本和江
書道	水谷鴨村 谷田昭翠	大窪翠村 山際法仙	加嶋翠蘭	妻藤江葉																																																							
版画	石脇正江 近藤正徳 中原玉美 山本和男	奥田幸衛 坂田秀樹 林小夜子	小田加代子 菅原一代 毛利和子	桑田幸人 計羽孝之 山崎勝美																																																							
写真	朝倉雅仁 清水節子 松田龍太郎 山根喬市	池上憲文 津村睦男 森脇登美子 山本紀弘	上田福美雄 西谷照子 山田敏和 山本浩一	尾川伸弘 秦野のぼる 山田直人 山脇賢治																																																							
デザイン	尾形友行	川本東洋	山根大和																																																								
洋画	秋本直子 岡本優子 小谷順子 長谷川聖子 山崎美奈子	市川圭子 門脇賢太郎 佐伯文子 林本豊 山根千賀子	入江喜美子 兼田明子 長尾俊一 円 謙三 山本すみえ	入江敏子 倉本美香 南場兄一 水本亜希 若槻 勉																																																							
日本画	中川端月 徳田三凌	井谷蘭径 松本恵春	井上畊岳 山根凌雪	東原玲泉																																																							
染織	工房 GURUGURU		鷺見早余子	吉田公之介																																																							
招待作家	藤田春水（書道）																																																										
県文連	湯梨浜町文化団体協議会		（日本画） 石川綾香 岡本ゆう子	井上ゆきみ 岸本律子																																																							
	勝山文化協会（ちぎり絵）																																																										
	石川八千代 中川早智子 宮本享代	酒井睦子 福本好子 三町陽子	佐藤時江 松尾初江	田村喜美子 松本和江																																																							

	<p align="center">(総出品者 84名・総作品数 139点・物故者 1名) 昨年比 62名・25点の減少</p> <p>昨年同様、今年も招待作家コーナーを設け、世界的に活躍される書道の「藤田春水」先生にご出品いただきました。春先に体調不良で入院され、ご病気が心配されましたが今回の展覧会のために病を乗り越え、文字通り命を削るがごとくの創作意欲で多くの傑作をご出品いただきました。こういう高いプロ意識の書道家が現在の倉吉におられるのは、とても誇り高いことです。</p> <p>また、昨年なかった日本画部門が復活したのもエキシビションの多様性がでて好材料でした。</p> <p>さらに今年は、初の県外交流として、岡山県の勝山文化協会の方々に、「ちぎり絵」部門でご参加いただきました。</p> <p><u>長年続いた歴史ある「倉文協連合展」の改革を進めて2年目ですが、新名称も認知度が低く、プロデューサーをはじめ新体制もまだ実力不足な感があります。あらゆる面で過渡期にある本展覧会ですが、倉吉の文化芸術の底力は感じた今年の展示だったと自負しています。</u></p>
<p>事業効果 (今後の見込 があれば併せて記入)</p>	<p>今年も独創性あふれる力作が並び、アンデパンダン形式(無審査・自由出品)の良さを存分に発揮できました。普段できないジャンルを超えた交流ができ、創作活動を通しての「生きがい」、「心のオアシス」を出品者に提供できました。</p> <p><u>来館者:10月15日(74名)16日(92名)17日(72名)19日(73名)20日(82名)5日間で393名が来館。</u></p> <p><u>昨年の来館者:8月28日(151名)29日(189名)30日(171名)3日間で511名。2日増やしたにもかかわらず、昨年比118名の減少。</u></p> <p>ギャラリートークや出品者と観覧者の対話により、中部地域独特の歴史の長い文化芸術活動の啓蒙や、コミュニティの活性化に貢献できました。 <u>特に、新規出品の東京から帰ったばかりの中年ご夫婦は、「芸術について語り合う仲間がほしかった」と、たいへん喜んでおられました。</u></p> <p><u>また、今年から初の試みの県外交流展示コーナーでは、岡山県の「勝山文化協会」の方々から出品いただきました。これは文化活動を通じた「文化観光交流」として人的交流を活性化する上でたいへん将来性のある試みと自負しております。</u></p>
<p>他団体との個別の意見交換等の概要及び成果</p>	<p>今年には特に連携はできなかったですが、来年は山陰KAMIあかり・未来ウォークなどとの連携を模索したいです。<u>市内各地で同時開催で百花堂や民芸画廊・赤瓦1号館ギャラリーなどとも連携し、「芸術系イベント」をからませ、スタンプラリーなどをつけて「芸術の秋満喫・アートウォーク」など面白いと思います。</u></p>